

經 濟 学 部

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51101 51901	経済演習Ⅰ 演習Ⅰ	必	1	各4	通 年	近 藤 仁
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 身近な物価について考えてみよう。

【講義内容】 最近の物価の動向から、物価はどうして決まるか。なぜ日本は外国に比べてものが高いという内外価格差問題が生じるのか、またその解消のためにはどうすればよいのか、あるいは政府の物価安定策はどのようなものか等についての問題を、ミクロ経済とその背景にある現実経済との関係から考察する。

また、コンピュータ・プログラム言語（FORTRAN）の基礎を学習し、現実のデータを分析する手法を身につける予定である。

【講義計画】 前期は、日本の物価問題を取り上げ、講義内容で述べた問題について義論することにより、現実の経済がどのように動いているのかを理解する。数名ずつのグループに分け、報告分担を決める。グループで調査・研究したものを報告し、全体で義論し、各自の理解を深める。また、時事グループによる新聞記事の解説から、経済問題を認識する力を養う。

後期は、プログラミング言語FORTRANを用いて、論理的考察力の育成を行うとともに、現実のデータを分析する基礎的手法を学習する予定はである。

【評価方法】 出席は言うにおよばず、報告内容・質疑応答、レポート提出あるいは演習における役割の遂行状態と、すべての経済演習Ⅰの共通課題となっている書評・修了論文により、総合的に評価する。

【テキスト】 経済企画物価局編『物価レポート'95』（経済企画協会、1995）
コンピュータ関係については、資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51102 51902	経済演習Ⅰ 演習Ⅰ	必	1	各4	通 年	水 谷 重 秋
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 経済学入門

【講義内容】 高齢時代における福祉問題、地球環境問題、自動車公害問題、原発問題、会社人間と過労死問題、日本経済の空洞化、日本型雇用の現状と将来など、現代におけるさまざまな経済問題のなかから4つか5つの問題を学生に選ばせ、それらの問題点と解決法を探る。

【講義計画】 上記のような経済問題ごとにグループを作り、グループ単位で研究する。研究したことはゼミで順番に報告して全員で議論する。最終的には個別に修了論文を作成することになる。

【評価方法】 毎回のゼミにおける活動状況をみて総合的に評価する。

【テキスト】 (1)本多勝一『日本語の作文技術』（朝日文庫、1982）
(2)木下是雄『レポートの組み立て方』（ちくま文庫、1994）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51103 51903	経済演習Ⅰ 演習Ⅰ	必	1	各4	通 年	村 松 久 良 光
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 現代経済入門

【講義内容】 ダイナミックに変動している現代の日本経済および環境問題などの今日の問題を対象として、経済学に対する問題関心を高めることをねらいとする。

【講義計画】 以下のテキストから関心のある章を一つ選んで、そのテーマごとに3、4人の班を編成し（同じテーマの班が複数でもよい）、グループ討論、資料収集、発表、質疑応答を行い、テーマを掘り下げて最終的に修了論文を作成する。
夏期には、山で2泊3日の合宿を行い、そこでチーム発表を行う。

【評価方法】 ゼミへの参加熱心度と書評、修了論文

【テキスト】 日本経済新聞社編『ゼミナール日本経済入門』（日本経済新聞社 最新版）その他に、日本経済新聞など。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51104 51904	経済演習 I 演習 I	必	1	各4	通 年	中 矢 俊 博
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 経済学の基礎

【講義内容】 今年の演習 I はテキスト、大名泰彦編『エレメンタル近代経済学』（英創社、1994）を参加者とともに輪読していく。

内容は、

- ①なぜわれわれは経済学を学ぶか
 - ②21世紀の日本を経済学で考える
 - ③モノの値段はどう決まるか
 - ④1人当たりG N P世界第3位とはどういうことか
 - ⑤お金の流れのしくみ
 - ⑥政府が行う経済活動
 - ⑦好況・不況はなぜ起きるのか
 - ⑧貿易黒字1323億ドルはどこにあるのか
 - ⑨経済思想の歴史
- である。

【講義計画】 上記の内容を演習参加者と共に輪読し、討論をおこなう予定。書評も数回提出させる予定にしていく。夏期合宿では、『ケインズ以後の100大経済学者』（同文館出版）を輪読する。

【評価方法】 レポート・出席状況等を総合的に評価する。修了論文が重要。

【テキスト】 ①大名泰彦編『エレメンタル近代経済学』（英創社）②M.ブローグ著・中矢俊博訳『ケインズ以後の100大経済学者』（同文館出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51105 51905	経済演習 I 演習 I	必	1	各4	通 年	桜 井 健 吾
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 テーマ：社会科学の古典を読む

【テキスト】 トクヴィル『アメリカの民主政治』第1巻

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51106 51906	経済演習Ⅰ 演習Ⅰ	必	1	各4	通 年	末 重 正 行
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 日本の経済について、特に経済成長、税金、資産格差、地価などを中心に考察する。

【講義計画】 1. テキストを用いて順次、個人報告をする。
2. 担当者の報告について教員が補足説明をした後、質疑応答をする。
3. レポートを作成。年数回のレポートを出してまとめをする。

【評価方法】 報告、ゼミ時間中の質疑応答、出席、レポートによる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51107 51907	経済演習Ⅰ 演習Ⅰ	必	1	各4	通 年	杉 山 俊 治
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 現在の日本経済をよりよく理解するために、一つの画期とみられる石油危機（1973）以後二十年余のわが国経済の歩みを、とくに国際経済関係に注目しながら考察する。

【講義計画】 各自の分担をきめて下記のテキストを輪読し、全員で討議する方法で進めるが、各セクション毎に他の参考文献を適宜指示して閱讀を求める。
なお、考察の背景としてより長期的な展望を把握しておくことが重要なので、同じ著者の『昭和経済史』（岩波セミナー・ブックス）をも用意しておくことが望ましい。
夏期合宿（2～3泊）での補講を予定している。

【評価方法】 随時提出を求める（2～3回）レポートと修了論文の成果に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】 中村隆英著『現代経済史』（岩波セミナーブックス53 岩波書店、1995）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51108 51908	経済演習Ⅰ 演習Ⅰ	必	1	各4	通 年	須 磨 千 穎
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 近代初期日本経済の史的研究

【講義内容】 幕末開港期に始まる日本近代の経済史を認識し研究するための基本的な史料を、ほぼ年代順に読んで内容を検討する。日清戦争前後までの時期が範囲に入る予定。

【講義計画】 演習は、受講者にあらかじめ講読する史料の分担範囲を決めて、順次割り当て、それに関するレジュメの作成および報告を求め、討議するという方法で実施する。学年末に学習範囲内の特定のテーマを主題とした修了論文の作成を課す。

【評価方法】 原則として毎週受講者全員から予習した内容をレジュメにしたものの提出を求める。また夏期休暇中の宿題（前期末の課題）として「書評」の作成が課される。それらの提出物と演習での発表ならびに出席状況などを総合的に勘案して評価する。

【テキスト】 安藤良雄編『近代日本経済史要覧』の「Ⅱ．時期別史料」の部分。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51109 51909	経済演習Ⅰ 演習Ⅰ	必	1	各4	通 年	上 田 薫
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 平易な概説書を用いて日本経済の現況を知り、経済学入門への一助とする。

【講義計画】 グループ形式による輪読の形で、適宜質問・解説等を行っていきたい。

【評価方法】 テキスト未定のため、未定。

【テキスト】 講義目的にてらし出来るだけ内容の新しいものが望ましいので、未定とする。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51110 51910	経済演習Ⅰ 演習Ⅰ	必	1	各4	通 年	阪 本 俊 生
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 社会現象としての流行を理解する。

【講義内容】 私たちの消費行動にみられる流行は、日常的な経済活動と密接にかかわる社会現象である。この演習においては、流行現象を社会学的視点から理解することをめざす。

【講義計画】 テキストを各自が分担し、輪読していく。

【評価方法】 出席、レポート、報告等による。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51111 51911	経済演習Ⅰ 演習Ⅰ	必	1	各4	通 年	林 尚 志
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 日本の経済援助のあり方を探る。

【講義内容】 本演習では、世界一の援助大国である日本が行ってきた経済援助の現状及び問題点を理解した後、より望ましい援助のあり方を求めて建設的、具体的な改革案を探っていく。その過程で、生きた経済学を学ぼうとする意欲を高めることを目的とする。

【講義計画】 (1)前半は上記テキストを用いて、日本が発展途上国に対して行っている経済活動、とりわけODA（政府開発援助）について現状を学ぶ。3～4人の班ごとに各章を担当し、発表を行う。
(2)夏季休暇中には、日本の経済援助に関する文献リストの中から、自らが興味を持ったものを1冊選び、書評を作成する。
(3)後半は、班を再編成し、班全員の書評を出発点としながら、班別に「日本の経済援助体制の問題点および今後の改革案」をまとめて対抗討論会を行い、事前準備、討論論旨、チームワークの3点について優劣を競う。
夏休みには2泊3日程度の合宿を行い、ゼミ生の親睦を深める予定。また、合宿、コンパ、レクリエーション、討論など係を分担して、全員にゼミの運営に参加してもらう。

【評価方法】 (1)発表、質問等、演習中の参加姿勢、(2)各係としてのゼミ活動への貢献、および、(3)夏休みの書評、修了論文等の提出物に基づいて評価を行う。

【テキスト】 久保田勇夫編『Q & AわかりやすいODA』（ぎょうせい、1992）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51112 51912	経済演習Ⅰ 演習Ⅰ	必	1	各4	通 年	吉 根 勝 美
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 社会の変化を「情報」という視点からみる。

【講義内容】 例えば、電子メールが仕事の進め方を変え、ひいては会社の組織構造まで変えてしまう事例がある。このように、昨今の社会状況の変化に情報が関わっていることが多い。本講義では、情報社会に関わるトピックをいくつか取り上げ、それについて議論することをひとつの柱とする。また、大学生生活のスタートにあたり、大学の学習で必須である資料調査の方法、レポート作成の方法、討論や報告の方法を身につけることが、本講義のもうひとつの柱である。

【講義計画】 講義はいわゆるゼミナール形式、すなわち輪読、討論、報告で進める。したがって、各自の下調べは必須である。そのための資料調査や作成の実践を通して、経済演習Ⅰの共通課題である夏休み後の「書評」と学年末の「修了論文」の完成をめざす。

【評価方法】 ゼミ参加（出席ではない）の程度と書評、修了論文で評価する。

【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51131 } 51134	経済学のための数学	必	1	各2	前期 後期	春 藤 修 二 宮 元 忠 敏
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 微分法入門

【講義内容】 1変数の関数の微分法を中心とする。将来、数学を応用する立場に立つことを考慮して、基礎的な数学概念および定理がわかりやすく、使いやすいように講義する。

【講義計画】 数学概念、定理の意味をつかみやすいように、できるだけ図形的な意味を説明の中に取り入れる。また、小さな区切り毎に、例題、問題の解法を入れ、理解の助けとなるようにしつつ講義をすすめる。数学が嫌いな諸君には「数学A」の併行履修を勧める。

【評価方法】 筆記試験により評価する。出席も考慮に入れる。

【テキスト】 永田幸令、三好武雄著『プラクティカル基礎数学』（開成出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51141 51142 51145 51146	データ処理入門	必	1	各2	前期 後期	近 藤 仁
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 経済データの処理とレポートの作成

【講義内容】 論文やレポート作成に役立つ文章の推敲が簡単に行える日本語ワープロの基礎を学習し、また経済の動きに関する理解を深めるため、現実の経済データを利用して平均や分散あるいは頻度・分布といった統計的データ分析の初歩的手法や成長率や指数変換といったデータの加工手法などを表計算ソフトを用いて学習する。さらにプレゼンテーションの有用な手法としてのグラフの使用法などを、パソコン統合ソフト「MS-OFFICE」を用いて学習する。

【講義計画】 ①情報化社会と情報倫理（情報化社会とデータ、情報の管理、情報倫理）
 ②パソコン入門（コンピュータ、オペレーティング・システム、ファイル管理等）
 ③ワープロ入門（日本語入力・変換、第二水準文字、書式、レポートの書き方等）
 ④経済データ入門（経済データの種類と特性）
 ⑤表計算入門Ⅰ（統計学入門：平均、分散、標準偏差、度数分布、正規分布等）
 ⑥表計算入門Ⅱ（データ加工入門：変化率・成長率、指数・対数変換等）
 ⑦グラフ入門（プレゼンテーション手法としての各種グラフ）
 ⑧統合（表・グラフの文書への取り込み）
 により、パソコンを用いたデータ処理方法を順次学習する。
 また、講義テーマに応じて、3回程度のレポートを課すことによって、各自の理解を促進させる。

【評価方法】 出席とレポート提出により、総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51143 51144 51147 51148	データ処理入門	必	1	各2	前期 後期	吉 根 勝 美
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 経済データの処理とレポートの作成

【講義内容】 論文やレポート作成に役立つ文章の推敲が簡単に行える日本語ワープロの基礎を学習し、また経済の動きに関する理解を深めるため、現実の経済データを利用して平均や分散あるいは頻度・分布といった統計的データ分析の初歩的手法や成長率や指数変換といったデータの加工手法などを表計算ソフトを用いて学習する。さらにプレゼンテーションの有用な手法としてのグラフの使用法などをパソコン統合ソフト「MS-OFFICE」を用いて学習する。

【講義計画】 ①情報化社会と情報倫理（情報化社会とデータ、情報の管理、情報倫理）
 ②パソコン入門（コンピュータ、オペレーティング・システム、ファイル管理等）
 ③ワープロ入門（日本語入力・変換、第二水準文字、書式、レポートの書き方等）
 ④経済データ入門（経済データの種類と特性）
 ⑤表計算入門Ⅰ（統計学入門：平均、分散、標準偏差、度数分布、正規分布等）
 ⑥表計算入門Ⅱ（データ加工入門：変化率・成長率、指数・対数変換等）
 ⑦グラフ入門（プレゼンテーション手法としての各種グラフ）
 ⑧統合（表・グラフの文書への取り込み）
 により、パソコンを用いたデータ処理方法を順次学習する。
 また、講義テーマに応じて、3回程度のレポートを課すことによって、各自の理解を促進させる。

【評価方法】 出席とレポート提出により、総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51151 51161	経済入門Ⅰ・Ⅱ	必	1	各2	前期 後期	中 矢 俊 博
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 現代社会を見る目

【講義内容】 現代社会で起こっている現象を、経済学の視点から分析していく。例えば、①景気循環は何故おこるのか、②われわれの身の回りにある商品はどのように変化しているか、③円はこれからどうなる

るのか、④世界の人口は増加していくのか、もしそうならその結果何が起ころのか、⑤われわれは皆かってに行動しているのに何故混乱が生じないのか、⑥人間の行動は合理的か、などちょっと考えただけでも、様々な問題が浮かび上がる。それらの問題を入門レベルで考察していきたい。

- 【講義計画】 ①経済学の取り組むべき諸問題
②資本主義社会のルーツ
③ケインズ以前の 100大経済学者
④経済循環の構造
⑤インフレーション
⑥消費者行動（消費者は王様か）
⑦日本人の貯蓄好き
⑧人間は働く動物

という様に、毎回テーマを決めて講ずる予定。前期は初歩的なことを中心に、後期は少しずつこ

【評価方法】 I・IIとも、各2回のレポートと、定期試験の成績等を統合して評価する。

- 【テキスト】 ①森 茂也『新講経済学（改訂版）』（同文館出版）
②M. ブローク著・中矢俊博訳『ケインズ以後の 100大経済学者』（同文館出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51152 51162	経済入門Ⅰ・Ⅱ	必	1	各2	前期 後期	末 重 正 行
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経済学の基礎的な考え方を講述する。経済学の歴史、ミクロ経済学、マクロ経済学を中心に、経済学の理解のために繰り返し使われる基本的概念や考え方を説明する。

【講義計画】 前期は主として、消費者と企業の経済行動を中心に説明するミクロ経済学の領域を取り上げる。後期は国民所得の決定と変動を中心にしたマクロ経済学を論ずる。

【評価方法】 期末試験、期間中の小テスト及び出席によって評価する。

【テキスト】 森 茂也『新講経済学』（同文館）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51153 51163	経済入門Ⅰ・Ⅱ	選	1～4	各2	前期 後期	杉 山 俊 治
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 現代の経済社会についてその複雑なシステムとメカニズムの要点をできるだけ簡潔にまとめて解説し、初めて経済学を学ぶ人たちの理解に資することをめざしている。

【講義計画】 前期の（Ⅰ）では、経済生活の意義・性格とその基本問題を論じたあと、いわゆるミクロ経済学の基礎理論とその若干の応用について学習する。主な項目は、消費者・行動と需要、費用と供給、資源配分の効率性、独占、市場の失敗と補正など。後期の（Ⅱ）では、いわゆるマクロ経済学の基礎理論とその若干の応用を学習する。主な項目は、有効需要、貨幣と信用、物価、財政・金融政策、インフレーションと失業など。

【評価方法】 期末に筆記テストを行い、その成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】 伊藤元重著『入門経済学』（日本評論社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51154 51164	経済入門Ⅰ・Ⅱ	選	1～4	各2	前期 後期	田 原 昭 四
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重 複 履 修 不可

【副 題】 経済の見方・考え方

【講義内容】 経済の基礎的な考え方と、日本経済を中心とした現実の経済現象と関連させて論述する。講義内容は国民所得、経済成長、金融、財政、産業、経済変動、国際経済。

【講義計画】 経済入門Ⅰでは、経済についてのマクロの基礎理論を論述する。経済入門Ⅱでは、これを踏まえた日本経済への応用的知識を論述する。

【評価方法】 学期試験の結果を重視する。また、出席状況も評価する。

【テキスト】 篠原三代平『経済学入門（上・下）』（日本経済新聞社、1992）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51155 51165	経済入門Ⅰ・Ⅱ	選	1～4	各2	前期 後期	林 尚 志
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重 複 履 修 不可

【副 題】 「経済学を使って考える」

【講義内容】 本講義では、経済に関連する様々な疑問を取り上げ、これらに対して解答の手がかりを与えていく。たとえば、「景気がいったん悪くなると、なかなか回復せず、君たちの就職活動に間に合わないかも知れない。これはなぜか？」「貿易収支は大幅な黒字で困っているのに、政府は財政赤字を減らす必要があるという。一体、日本は黒字なのか、赤字なのか？」「おコメの輸入自由化が話題になったが、自由化すると何が変わるのか？」「資源環境問題が深刻化していると言うが、生きていくためには石油も使うし、ゴミも出る。どうすればよい？」等々…

これらをともに考えながら(1)経済学は、我々の暮らしの重要な側面である“経済”をどのようにとらえているのか？ (2)経済学は、現代社会のかかえる課題に対して、どの程度解決の糸口を与えてくれるのか？といった点を学んでいこう。

【講義計画】 予め、1講義当たり数問からなる疑問点をまとめた教材プリントを配布し、これらの疑問に答えていく形で講義を行う。テキストの11章までの内容をカバーすることが一応の目標であるが、出席者の理解度に基づいて進度を調整するつもりである。

【評価方法】 定期試験、および随時行われる予定の小テストに基づいて評価を行う。

【テキスト】 伊藤元重著『入門 経済学』（日本評論社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51171 51921	経済演習Ⅱ 演習Ⅱ	必	2	各4	通 年	花 井 敏
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重 複 履 修 不可

【副 題】 問題の発見、分析、解決の学習

【講義内容】 たとえば、「日本は学歴社会か」、「名古屋人はケチか」、「駐車違反問題にいかに対処するか」、「日本の出生率はなぜ低下しているのか」、「ガソリンの値段はなぜ横並びか」、といった具体的な（経済）問題を取り上げ、こうした問題にどのように取り組み、いかにして最終的な成果にまで

到達するか、といった一連のプロセスを学びます。

【講義計画】 まず前期では、4、5人からなるグループを作り、私が与える（比較的やさしい）問題に対して、どのようにアプローチして最終的な成果にまで到達するかにゆっくりと取り組みます。夏休みの合宿で各グループでそれぞれの問題、課題を発見してもらい、さらに、問題分析、問題解決へと進み、最後にレポートにまとめてもらいます。

【評価方法】 ゼミ出席、調査プロジェクトの成績、ゼミでの討論、などを総合的に評価します。

【テキスト】 特定のテキストは使いません。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51172 51922	経済演習Ⅱ 演習Ⅱ	必	2	各4	通 年	奥 口 孝 二
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 経済学の基礎

【講義内容】 本演習では英語の経済学の入門テキストを用い経済現象を解明するために必要な経済理論の初歩を学ぶ。演習では毎回複数のレポーターにテキストの概要を発表してもらう。グループ学習形式はとらない。

【テキスト】 J, E. Stiglitz, Economics (ノートン社、1993)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51173 51923	経済演習Ⅱ 演習Ⅱ	必	2	各4	通 年	桜 井 健 吾
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 テーマ：社会科学の古典を読む。

【テキスト】 トクヴィル『アメリカの民主政治』第2巻

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51174 51924	経済演習Ⅱ 演習Ⅱ	必	2	各4	通 年	杉 山 俊 治
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 経済政策入門

【講義内容】 前半では経済政策論の総論的問題と方法論的問題を学習し、後半では各論的にマクロ経済政策とミクロ経済政策（いつれを中心とするかは未定）について学ぶ。なおマクロ政策を中心とする場合には、下記テキストの他に、J.Brooks & R.W.Evans, *Macroeconomic Policy in Theory and Practice*. をも用いる。

【講義計画】 あらかじめ決められた報告分担にしたがい、テキストの内容の概要を報告し、全員で討議する。テキストはこちらで印刷配布する。

【評価方法】 演習への出席、報告内容、定期試験の成績によって評価する。

【テキスト】 Hartley, *Problems of Economic Policy*, George Allen & Unwin.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51175 51925	経済演習Ⅱ 演習Ⅱ	必	2	各4	通 年	須 磨 千 穎
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 江戸中期の経済思想 ——海保青陵の著作を読む——

【講義内容】 この演習は青陵の著作を順次講読してその内容を把握し、彼の経済思想を当時の政治や社会・経済の状況との関係の中で検討するものである。

【講義計画】 演習のやり方は、テキストを受講者各自に1人2～3ページずつ割り当て、順番にそれを読んだ上で、その内容のレジュメに即して説明を求め、それをめぐって討議するという方法をとる。

【評価方法】 原則として毎週受講者全員から予習した内容をレジュメにしたものの提出を求める。それと前・後期末に提出するレポート、演習での発表、出席状況等により総合的に評価する。

【テキスト】 海保青陵「稽古談」「新懇談」など（『日本思想大系』44所収）。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51176 51926	経済演習Ⅱ 演習Ⅱ	必	2	各4	通 年	田 原 昭 四
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 景気変動と日本経済

【講義内容】 日本経済で発生している景気変動のメカニズムの理論と実態を研究する。また、時事経済問題を常時取り上げる。考察範囲は、マクロ景気をはじめ、貿易、消費、産業、企業、金融、物価、労働など経済各部門の活動と景気変動との関連性を幅広く取り扱い、景気変動の基礎的知識の習得を目指す。

【講義計画】 各自に割り当てられたテーマを中心に、テキストおよび関連文献を参考にした研究報告、討議を行う。

【評価方法】 参考文献の調査研究、発表内容、質疑応答、出席状況を総合的に評価する。

【テキスト】 金森久雄・土志田征一編『景気の読み方』（有斐閣、1991）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51177 51927	経済演習Ⅱ 演習Ⅱ	必	2	各4	通 年	荒 井 好 和
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「分析する」とはどういうことか？

【講義内容】 演習は、学生自らが問題を設定し、その問題を解きあかすために必要な資料・文献・データなどを集め、分析し、最終的には卒業論文として仕上げる一連のプロセスを身につける場である。しかし、現実には、一部の学生を除くと、まず「どのような問題」を取り上げたらよいのか迷う学生が大部分であろうと思われる。そこで、この演習では、さしあたり具体的かつ身近な問題に取り組むことを通じて、学生自身が研究の仕方を身につけ、卒業論文作成の糸口を各自が発見できるようにすることを意図している。

学生からの提案を待っているが、さしあたっては次のような問題を考えている。

- (1)銀行業の給与水準は他産業のそれと比べて高いか否か、それはなぜか？
- (2)銀行業はもうけすぎか否か？他産業と比べてどうか？
- (3)メインバンク関係はなぜ存在するのか？

- (4)在日外国銀行のシェアが伸びないのはなぜか？
- (5)郵便貯金は民営化すべきか否か？
- (6)郵便局の簡易保険は民営化すべきか否か？
- (7)日本は経済大国といわれながら、生活水準は低い。なぜか？
- (8)円高をもたらす経常黒字は減らすべきか否か？
- (9)農協はなぜ赤字か？農協の存在理由はあるのか？
- (10)日本の公共料金は他の先進諸国と比べて極めて高い。それはなぜか？
- (11)瀬戸万博は必要か？
- (12)消費税引き上げは必要か否か？
- (13)「APEC」って何？日本はアジアの経済問題に対してどのように取り組むべきか？
- (14)リゾート開発はこれでよいのか？環境破壊は止められるのか？
- (15)日本の大学生は勉強しない。それはなぜか？
- (16)出生率が低下している。それはなぜか？

【講義計画】 2～3人で1つのグループを作る。各グループは、半期ごとに1つのテーマを選び、ゼミで報告するとともに論文を作成する。

【評価方法】 (1)2回無断欠席はF。
(2)成績は、報告内容と論文で評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51178 51928	経済演習Ⅱ 演習Ⅱ	必	2	各4	通 年	山 田 正 治
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 日本の経済が国際経済の動きとどのようなかわりをもっているのか考える。

【講義計画】 教科書として、伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』（日本経済新聞社）、を使用し、グループごとの発表と討論を行う。秋の合宿で、各自が国際経済に関連するテーマを選んで報告し、学年末にそのレポートを提出する。

【評価方法】 普段の報告と質疑応答、そして学年末のレポート等から総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51179 51929	経済演習Ⅱ 演習Ⅱ	必	2	各4	通 年	林 尚 志
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 ゼミナール「アジア経済入門」

【講義内容】 本演習では、近年、日本経済との関係を深めながら著しい成長を遂げつつある東アジア経済についての理解を深めるために、「東アジア経済のダイナミズムはどこから生まれたのか？」、並びに、「今後、この地域がさらなる発展を遂げるための課題は何か？」という2つの疑問を探る。

具体的な内容は、以下の通りである。

- (1)前期、および夏季合宿においては、NHK市民大学での著者の講義がまとめられている渡辺（1989）を読み、アジア経済発展のメカニズムをとらえる。
- (2)後期は、アジア経済の最近の動向、ならびに今後の展望をまとめたさくら総合研究所（1994）を読み、これら諸国が直面する現状と課題を探る。

【講義計画】 1班3～4人で編成される計8班のうち毎回2つずつが担当班となり、林が予め用意する“テキスト理解のための質問”に対する解説を競い合う。また、担当者以外にも発言の機会が与えられているので、全員、積極的に議論に参加することが望まれる。

【評価方法】 (1)発表、質問等、演習中の参加姿勢、(2)適宜行われる小テスト、ならびに、(3)各係としてのゼミ活動への貢献に基づいて評価を行う。
夏休みに2泊3日程度の合宿を行う予定。「よく学び、よく遊ぶ」元気の良いゼミとなることを

願っている。

- 【テキスト】 (1)渡辺利夫著『アジア経済をどう捉えるか』(NHKブックス 1989)
 (2)さくら総合研究所(環太平洋研究センター)著『新世紀へのアジア発展のシナリオ』(ダイヤモンド社、1994)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51201 51941	ミクロ経済学 経済原論Ⅰ	必	2	各4	前期	近 藤 仁
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 ミクロ経済学

【講義内容】 ミクロ経済学は、経済活動を市場や経済主体の行動という観点から分析する経済学の基礎理論である。講義では、競争市場における価格決定機構の分析や、消費者・生産者という経済主体の行動の分析、また不完全競争市場についての基礎理論を講義する。

【講義計画】 ①資本主義経済と経済問題
 ②需要と供給、市場と市場均衡
 ③与件の変化と需要・供給曲線のシフト
 ④弾力性の概念
 ⑤消費者行動(効用極大化行動)
 ⑥財(要素)に関する需要(供給)曲線の導出
 ⑦生産者行動(利潤極大化行動)
 ⑧財(要素)に関する供給(需要)曲線の導出
 ⑨均衡の安定性
 ⑩不完全競争の市場
 ⑪独占企業の行動
 ⑫寡占市場における価格の下方硬直性

【評価方法】 中間試験と定期試験で総合的に評価する。

【テキスト】 多和田 眞編著『経済学講義』(中央経済社、1991)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51202 51942	ミクロ経済学 経済原論Ⅰ	必	2	各4	前期	水 谷 重 秋
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 (1)ミクロ経済学の論理と方法(2)市場機構と需要・供給(3)消費者と需要(4)消費者行動と需要曲線(5)企業行動と生産関数(6)企業行動と費用曲線(7)企業の長期費用曲線と市場の長期供給曲線(8)完全競争市場と効率性(9)不完全競争市場(10)不確実性と情報(11)ゲームの理論(12)市場機構の限界

【講義計画】 講義内容に掲げたそれぞれの項目を2回ずつの講義で説明していく予定。

【評価方法】 中間テストおよび期末テストをそれぞれ50点満点で評価し、抜き打ち的に行う小テストの結果をボーナス点として加算する。

【テキスト】 西村和雄『ミクロ経済学入門(第二版)』(岩波書店、1995)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51211 51951	マクロ経済学 経済原論Ⅱ	必	2	各4	後期	村松久良光
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重複 履 修 不可

【講義内容】 インフレや失業、景気変動などマクロ経済の問題を理解する基本的な枠組みであるマクロ経済学を、教科書にしたがって講義する。

1. 国民所得統計
2. GNPの決定
3. 資産市場
4. IS/LMモデル
5. オープン・エコノミーのマクロ経済学
6. 失業とインフレーション

【講義計画】 教科書にしたがって進み、学生からの質問や理解度を調べるために週に1回は小テストを行う。

【評価方法】 講義への参加度と試験結果。

【テキスト】 吉川 洋『マクロ経済学』（岩波書店、1995）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51212 51952	マクロ経済学 経済原論Ⅱ	必	2	各4	後期	上 田 薫
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重複 履 修 不可

【講義内容】 マクロ経済学の基本概念及び基本的理論を、出来るだけ首尾一貫した形で説明する。

- 【講義計画】
- ・マクロ経済学の基本概念(1)：GNPと国民所得
 - ・マクロ経済学の基本概念(2)：GNPとGNE
 - ・マクロ経済学の基本概念(3)：実質GNP、GNPデフレーター、失業率
 - ・古典派マクロ経済学のGNP決定理論
 - ・ケインズの有効需要概念
 - ・ケインズ経済学のGNP決定理論(1)：閉鎖経済
 - ・ケインズ経済学のGNP決定理論(2)：開放経済
 - ・投資行動
 - ・IS曲線と貸付資金説
 - ・貨幣需要
 - ・貨幣供給
 - ・為替レート決定のモデル
 - ・IS-LM分析
 - ・物価水準決定のモデル

【評価方法】 中間、期末試験（それぞれ40％、60％）の点数で評価する。

【テキスト】 教科書は特に定めませんが、それに準ずるものとして、吉川 洋『マクロ経済学』を挙げる。
授業内容の背景、またはさらに詳しい議論に興味をもつ人には、スティグリッツ『マクロ経済学』第3、8、10章を薦める。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51401 51411	経済英語Ⅰ・Ⅱ	選・必	2～4	各2	前期 後期	花 井 敏
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重複 履 修 不可

【副 題】 ビデオで学ぶ経済英語

【講義内容】 経済・ビジネス関係を英語でコミュニケーションするための糸口を与えること、これが本講義の目的です。書物にはあまり頼らずに、他の媒体（ビデオ）を積極的に使った講義を考えています。できるだけ小クラスにしたいので、英語に興味があり、ある程度英語の聴解能力のある学生に対象を絞りたい。

【講義計画】 経済英語Ⅰ（前期）では、主にカセット・テープを用いてリスニング能力を高めることを狙います。特に、ナチュラル・スピードより幾分遅い英語を聞くことによって英語を聞き取ることに馴れてもらいます。

経済英語Ⅱ（後期）では、主に、NHK衛星放送番組“ジャパン・ビジネス・トゥデイ”を使って、経済関係の英語ニュースを理解してもらいます。

【評価方法】 ほぼ毎回行う小テストと期末テストを総合的に評価します。

【テキスト】 特定のテキストは使いません。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51402 51403 51412 51413	経済英語Ⅰ・Ⅱ	選・必	2～4	各2	前 期 後 期	W. F. Ritchie
他の科目との関連				他学科履修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 This is a communication skills course in English for Economics. Active participation in the classes is the key to success in the course.

The classes offer opportunities to practice the four language skills in the order of their importance—listening, speaking, reading, writing. Their focus, however, is on listening and speaking skills most needed by people in the field of economics.

We will study models for main areas of applied economics—presenting facts and figures, describing trends, discussing strategies, negotiating agreements, ... We will use humorous video sequences covering the essential language of economics, and we will address intercultural questions.

This course is level 2 of a two-level course.

Level 1 is Business EnglishⅠ／Ⅱ, but it is not a prerequisite.

【テキスト】 The textbook for this class is Meeting Objectives—Activity Book (V Hollett, Oxford University Press, 1992.)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51404 51414	経済英語Ⅰ・Ⅱ	選・必	2～4	各2	前 期 後 期	K. Easley
他の科目との関連				他学科履修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 ECONOMIC DEVELOPMENTS IN THE WORLD

【講義内容】 A survey of developments in major world economies.

Different kinds of capitalism will be identified and examined historically, and their relationship to the cultural values of particular countries will be explored a little.

【テキスト】 No set text. Video and handouts will be used.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51405 51415	経済英語 I・II	選・必	2～4	各2	前 期 後 期	P. Muncada
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 The class offers opportunities to practice listening, speaking, reading and writing. The focus is on listening and the ability to effectively communicate in common business situations.

Among other topics, Keizai English I deals with first meetings, introducing yourself and your company, making appointments, and expressing opinions and preferences.

Keizai English II deals with making contacts, both personal and by telephone, describing products, monitoring a project, setting agenda and holding discussions.

【講義計画】 First there will be a lecture as to the main objective for the day. This will be followed by listening to the tape and orally practicing English idioms to be used. Next level of practice is through role-playing. There will be opportunities to present and discuss some selected articles in English.

【評価方法】 Assessment is based on class participation and reports.

【テキスト】 Roger Barnard and Jeff Cady. *Business Venture I*. Oxford University Press. 1994
Roger Barnard and Jeff Cady. *Business Venture II*. Oxford University Press. 1994

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51421	外書講読 I	選・必	2～4	2	前 期	家 本 博 一
他の科目 との関連	本講読は、家本博一担当の外書講読II（英書）とは別個の学 科科目であることに注意されたい。			他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 本講読では、下記のテキストを用いて、1992年1月から実施されたロシア連邦における「市場経済化」過程（いわゆる「エリツィン経済改革」）について、その全体像と具体的な展開過程を考察する。テキストの構成は以下の通りである。

1. Markets and plans
2. Russian market activity
3. Price liberalization and inflation
4. Employment and unemployment
5. Privatization
6. Monopoly
7. Income and living standards
8. False hopes

【講義計画】 1. 当初は、出席者に順に少しずつ訳出してもらい、補足説明を加えながら、内容の理解を深めていくこととする。
2. ある程度軌道に乗った段階で、訳出分担を決め、各報告者に担当部分の内容について訳出と説明をしてもらいながら、補足説明を加えて、内容の理解をより深めてもらう。

【評価方法】 本講読では、筆記方式による前期定期試験の結果を中心として、出席状況、報告内容の良否などを加味して評価を下す。

【テキスト】 Jim Leitzel, *Russian Economic Reform*, Routledge, 1995. (本文152ページ)
このテキストは、4月1日以降、第一研究棟6階613号室にある社会倫理研究所事務室において販売するので（代金¥3,120）、受講生は授業開始前に各自購入されたい。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51422 51432	外書講読Ⅰ・Ⅱ	選・必	2～4	各2	前期 後期	水 谷 重 秋
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 環境経済学

【講義内容】 (1)環境と経済学
(2)経済成長と環境
(3)環境問題の性質
(4)望ましい環境：最適性か永続可能性か
(5)環境の評価
(6)環境管理の方法
(7)不確実性をもった環境政策
(8)大気汚染と酸性雨
(9)田園の経済学
(10)熱帯雨林の最前線
(11)気候変動
(12)環境経済学の将来

【講義計画】 ある程度以上の数の学生が集まった場合にはゼミナール形式を採用し、グループごとに学習・報告させ、全員で検討・議論する。

【評価方法】 授業中の発表態度と期末の筆記試験とをあわせ考慮して評価する。

【テキスト】 Hodge, I., *Environmental Economics: Individual Incentives and Public Choices*, Macmillan, 1995.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51424 51434	外書講読Ⅰ・Ⅱ	選・必	2～4	各2	前期 後期	奥 口 孝 二
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経済学の基礎的な問題を世界的に定評のあるテキストを用いて勉強する。

【講義計画】 毎回二、三人のレポーターにテキストの概要を訳したものを提出してもらう。講義では一語一語の訳よりも大意をスピーディーに把握することに重点をおく。

【評価方法】 平常点とレポートによる。

【テキスト】 J.Stiglitz, *Principles of Economics*

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51425 51435	外書講読Ⅰ・Ⅱ	選・必	2～4	各2	前期 後期	藪 内 繁 己
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 外書で学ぶ国際経済学

【講義内容】 下記のテキスト(英語)を用いて、国際経済学の基礎を学ぶ。本書は、現在もっとも定評のあるテキストの一つであり、ていねいな説明と豊富な事例により理解しやすいと思われる。授業は、輪読形式であり、必要に応じ内容に関して講義する。

- 【講義計画】 1)労働生産性と比較優位
2)特殊要素と所得分配
3)資源と貿易
4)標準的貿易モデル
5)規模の経済性、不完全競争および国際貿易
6)国際要素移動
7)地域経済問題
8)貿易政策の道具
9)貿易政策の政治経済
10)途上国の貿易政策
11)先進国の産業政策

【評価方法】 出席、平常点および各期末の定期試験の成績により総合的に評価する。詳細については、最初の時間に説明する。

【テキスト】 Krugman P. R. and M. Obstfeld, *International Economics: Theory and Policy* (3rd edition), Scott, Foresman and Company, 1994.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51426 51436	外書講読Ⅰ・Ⅱ	選・必	2～4	各2	前期 後期	皆 川 正
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 本講義の目的は、英語で書かれた経済関係の文献を読みこなすことが出来るようにすることである。講義に使用するテキストはこちらで用意する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51431	外書講読Ⅱ	選・必	2～4	2	前期	家 本 博 一
他の科目 との関連	本講読は、家本博一担当の外書講読Ⅰ（英書）とは別個の学 科科目であることに注意されたい。			他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 本講読では、下記のテキストを用いて、旧ソ連邦・東欧諸国において現在進行中の社会主義体制から資本主義体制への体制転換過程について、その全体像と具体的な展開過程を考察する。

テキストの構成は以下の通りである。

Part I The Past: Real Socialism

- 1.The Bases of the Socialist Economic System
- 2.History
- 3.The Reforms: Experienced and Failures
- 4.The Performance
- 5.International Economic Relations

Part II The Present: Transition in the Making

- 1.The End of the System
- 2.Macroeconomic Stabilization
- 3.Privatization and Structural Reforms
- 4.Reintegrating the World Economy
- 5.Towards a Theory of the Transition?

【講義計画】 1. 当初は、出席者に順に少しずつ訳出してもらい、補足説明を加えながら、内容の理解を深めていくこととする。
2. ある程度軌道に乗った段階で、訳出分担を予め決め、各報告者に担当部分の内容について訳出と説明をしてもらいながら、補足説明を加えて、内容の理解をより深めてもらう。

【評価方法】 本講読では、筆記方式による前期定期試験の結果を中心として、出席状況、報告内容の良否などを加味して評価を下す。

【テキスト】 Marie Lavigne, *The Economics of Transition: From Socialist Economy to Market Economy*

Macmillan Press, 1995. (本文256ページ) このテキストは、4月1日以降、第一研究棟6階613号室にある社会倫理研究事務室において販売するので(代金¥3,360)、受講生は授業開始前に各自購入されたい。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51441 51451	ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ	選・必	2～4	各2	前期 後期	松 井 清 治
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

- 【講義内容】 国際化が益々進んでいる今日、日本人にとって国際的に通用する重要な能力の一つとして、語学力が挙げられる。言語は思考・行動様式・価値感など文化の特性を反映していると言われるが、特にビジネス英語の修得には、英語の知識だけでなく国際取引上の専門用語や背景にあるビジネス慣行などを理解することが必要となる。
そこで本講座では、国際貿易実務の基礎知識と専門用語を学習しながら、英文ビジネス・レターの書き方を中心としたビジネス英語を修得する。

- 【講義計画】 前期: Letters on Business Situations
貿易取引の流れに従って、貿易通信文を中心にその書き方を学習する。
後期: Letters on Social Situations
ビジネスに伴う出張・訪問の手配、招待状、各種の礼状や挨拶状などの書き方。
なお、貿易実務や国際取引の実際については、5年間の国際ビジネス経験をベースに、具体的事例を挙げて講義する。また、実際に使われたビジネス文書やスピーチ原稿なども教材にする。

- 【評価方法】 授業への参加度(テキストの訳読)および期末試験の成績による。

- 【テキスト】 “Business Letters for ALL” Oxford Univ. Press, 1993.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51442 51443 51452 51453	ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ	選・必	2～4	各2	前期 後期	W. F. Ritchie
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

- 【講義内容】 This is a communication skills course in Business English. Active participation in the classes is the key to success in the course.
The classes offer opportunities to practice the four language skills in the order of their importance—listening, speaking, reading, writing. Their focus, however, is on listening and speaking skills for the situations in which office workers need to use English to deal with English-speaking colleagues and customers.
We will study models for key functional areas of business interaction—making contact, telephoning, following and giving presentation, participating in meetings, ... We will use humorous video sequences covering the essential language of business contexts, and we will consider intercultural aspects of the business world.
This course is level 1 of a two-level course.
Level 2 is English for Economics I/II.

- 【テキスト】 The textbook for this class is Meeting Objectives—Activity Book(V Hollett, Oxford University Press, 1992).

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51444 51454	ビジネス英語 I・II	選・必	2～4	各2	前期 後期	K. Easley
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 BUSINESS ENGLISH

【講義内容】 The course will cover English communication skills in business situations. The focus will be on speaking and Listening practice: information exchange, making contact, meetings, business socialising, describing trends, etc.

【テキスト】 Business Objectives (Oxford University Press).

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51461 51462 51471 51472	時事英語 I・II	選・必	2～4	各2	前期 後期	廣 田 里 子
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経済英語の基礎を作るため当初テキストの速読を集中的に行なってからジャパン・タイムズ、フィナンシャル・タイムズ、エコノミスト、タイム、ビジネス・ウィークなどから経済問題を中心に直接、間接に日本に関係のある記事を読む。日本経済について、マクロ、ミクロ両方向からの記事を取り上げるほか、多国籍企業のグローバルな活動状況や、アジア太平洋地域をめぐる国際経済情勢の記事なども取り上げる予定である。最終目標としては現状と将来の展望が英語である程度理解できるようにする。英検準一級以上の英語力を想定しており、毎回聴解訓練も加える。

【講義計画】 上記の目標に向けて、前期は、
 ①基本的な英語の構文に対する理解
 ②語彙、語句の充実
 ③英語記事の読み方の基本
 などを中心に基礎力をつける。
 取り上げる記事としては、自動車、コカ・コーラ、IBM、米・欧・東京のディズニールランドなどミクロからはじめる。
 後期には、
 ①日本経済の動向
 ②ASEAN、中国、NIEsなどとこれを取りまく世界各国の動きなどについて
 ③専門用語
 ④表現の様式
 を出来るだけ多面的に理解し、実力の向上を図る。

【評価方法】 適時、発表、レポート等の提出を義務づけ、前・後期末にそれぞれテストを実施する。

【テキスト】 *Big Business in America* (成美堂)、ほかにプリントを用意する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51601	経済史入門A	選	2～4	2	後期	桜 井 健 吾
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 近代経済史の入門

- 【講義計画】
- I 近代経済史研究への序説
 1. 産業革命の人類史的位罫
 2. 概念上の諸問題
 3. ロストワの「離陸論」
 4. ガーシェンクロンの「比較後進性の仮説」
 - II 人口と工業化
 1. 前工業化時代の人口：「マルサスの悪循環」
 2. 工業化時代の人口：「人口爆発」
 3. 過剰人口と工業化
 4. 工業化と国内人口移動：水平的・垂直的流動性
 5. 人口転換

【評価方法】 筆記テストと出欠

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51603	経済史入門B	選	2～4	2	前期	須 磨 千 穎
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 日本経済史学の成立と展開

【講義内容】 日本経済史の研究が近代的な学問として成立するに至る過程と、その後の発達の様相について、近代日本の経済史と関連させながら講義する。

【講義計画】 経済史学は、一方の足場を経済学に、他方の足場を歴史学に置いている学問である。従ってこの講義では、まず西欧近代の自由主義経済学次いでドイツ歴史学派の経済思想の導入について概略を述べた上で、明治初期の文明史、明治政府の国史編纂とその中で成立したアカデミズム史学の性格などについて解説し、それらを前提にして、1900年前後に至り日本経済史の学問が成立する事情、以後昭和初期ごろにかけての研究の様相などについて述べる。

【評価方法】 成績は学期末定期試験によって評価する。

【テキスト】 特定のテキストは使用しない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51605 51607	経済数学Ⅰ・Ⅱ	選	2～4	各2	前期 後期	皆 川 正
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 ミクロ経済学やマクロ経済学を学ぶ上で不可欠と思われる数学的手法について講義する。出来るだけわかりやすく説明するつもりである。

【評価方法】 ヘンダーソン・クォント著、小宮・兼光訳『現代経済学』（創文社）。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51611 51612	統計学入門Ⅰ	選	2～4	各2	前期	程 島 次 郎
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 統計データの分析

【講義内容】 統計学は現在ほとんどあらゆる分野で利用・応用されている。統計学の目的は、実際のデータを分析して私たちの考えが正しいかどうか確かめたり、新しい知識を帰納したりすることにある。講義では、現代統計学の基本的内容を具体例を用いて解説し、統計的なものの見方が身につくようにすることを目的とする。1年次の「データ分析入門」で学んだ表計算ソフトExcelを使った実習と宿題を行う。

【講義計画】 以下の順で講義を行う。
 (1)統計学とは何か
 (2)1次元データの記述（度数分布、平均値、分散、標準偏差、移動平均など）
 (3)Excelによる実習
 (4)多次元データの記述（相関、回帰直線、多重回帰、偏相関）
 (5)Excelによる実習

【評価方法】 宿題とレポート

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51613 51614	統計学入門Ⅱ	選	2～4	各2	後期	程 島 次 郎
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 統計データの分析と推測

【講義内容】 「統計学入門Ⅱ」に続いて、現代統計学の基本的内容を解説し、統計的なものの見方が身につくようにすることを目的とする。「統計学入門Ⅰ」と同様に、表計算ソフトを使った実習と宿題を予定している。

【講義計画】 以下の順で講義を行う。
 (1)シミュレーションと乱数。
 (2)Excelを使った実習または宿題
 (3)確率
 (4)2項分布と正規分布
 (5)標本分布
 (6)Excel による実習
 (7)推定
 (8)検定

【評価方法】 レポートと試験

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51615	経済思想入門Ⅰ	選	2～4	2	前期	大谷津晴夫
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 市場の経済思想

【講義内容】 経済学の認識対象であり、経済学を支える社会的基盤でもある「市場」という社会の秩序形式の成立と特質について講義する。経済学の背後にあるものの把握を目指す。

【講義計画】 1. 社会の分化と市場の成立
 2. 市場の秩序
 3. 道徳と市場
 4. 家と市場

5. 政治と市場
6. 貨幣と価格の機能
7. 需要と供給
8. 公正と均衡
9. 市場の失敗
10. 市場と組織
11. その他の諸問題

【評価方法】 定期試験の成績にしたがって評価する。

【テキスト】 特定のテキストは使わないが、学習の便宜をはかって随時参考書を挙げていく。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51617	経済思想入門Ⅱ	選	2～4	2	後期	大谷津晴夫
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 貨幣の経済思想

【講義内容】 経済的取引を媒介するメディアとしての貨幣の機能について講義する。貨幣は人間のコミュニケーション一般から経済的取引を分化させる境界区分の機能をはたし、そのことを通して経済学の社会科学一般からの自律化に寄与している。近代の経済社会とその学問の分化によってそのように重要な役割をはたしている貨幣について検討を加え、「経済」というコミュニケーション領域の特質を探る。

【講義計画】

1. 貨幣の歴史
2. 非市場社会
3. 市場社会と貨幣
4. コミュニケーションと貨幣
5. 言語と貨幣
6. 貨幣諸学説
7. 貨幣の経済機能
8. 貨幣の問題性
9. インフレーションとデフレーション
10. その他の諸問題

【評価方法】 定期試験の成績にしたがって評価する。

【テキスト】 特定のテキストは使用しないが、学習の便宜をはかって随時参考書を挙げていく。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51625 51627	経済統計学Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	程島次郎
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 経済データを分析するための統計的方法について講義する。2年次の「経済原論」で学んだマクロ経済学での経済データの分析（実証分析）を参照しながら、経済モデルの推定・予測・検定および政策効果の評価などで最も基本的な回帰分析と連立方程式モデルを中心に講義する。パソコンを用いた実習、宿題を適宜行う。

【講義計画】 以下の順で講義を行う。

- (1)経済統計学とは何か
- (2)統計学の復習（確率変数、確率分布、標本、統計量など）
- (3)回帰分析（最小2乗法、最小2乗推定量の特性、t値、F値の見方など）
- (4)回帰分析の応用（加重最小2乗法、系列相関、ダミー変数など）
- (5)シミュレーション（政策効果の評価、時間の遅れの影響など）

(6)連立方程式モデル

【評価方法】 「経済統計学Ⅰ」では問題、レポート、試験などにより評価。「経済統計学Ⅱ」では、宿題と各自が選んだテーマでデータを分析した結果からなるレポートとで評価。

【テキスト】 伴金美他著『エコノメトリックス』（有斐閣、1988）
小川一夫他著『マクロ経済学』（有斐閣、1991）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51631 51633	数理経済学Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	奥 口 孝 二
他の科目 との関連	経済数学			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 数理経済学は経済現象の数学的分析を行う学問であるが、その具体的内容はマクロ経済学やミクロ経済学のように確定したものではない。伝統的にはリニアプログラミング・ノンリニアプログラミング等の数理計画、一般競争均衡モデルにおける均衡解の存在、安定性、パレート最適性等が数理経済学のコアをなしてきた。しかし、高度な数学的分析を必要とする経済現象ほどのようなものであれ数理経済学の対象になる。本講義では数理計画と寡占の数学的分析を主要内容とする

【講義計画】 前期では寡占の数学的分析をとりあげ、後期では一般均衡モデルと数理計画を問題にする。線形代数学・微分方程式・定差方程式等に関する若干の知識が必要とされるが、それらについては必要に応じて基礎的な解説を行う予定である。

【評価方法】 期末テスト

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51641 51643	データ解析Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	吉 根 勝 美
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 コンピュータによるデータ解析の理論と実習

【講義内容】 ハードウェアの高性能化とソフトウェアの多機能化により、コンピュータにデータを入れさえすれば何らかの答えを出すこと自体は容易になった。しかし、データの背後にある特徴を見抜くこと、計算結果を的確に読み取ることも大事なことである。本講義では、統計理論のみならず、データの収集、加工、表現方法を、コンピュータ処理を前提として学ぶ。

【講義内容】 Ⅰ・Ⅱとも、それぞれ4～5つのトピックを取り上げ、それにふさわしいデータ解析の手法を講義で解説し、コンピュータを使用した実際の処理を実習で行う。1つのトピックにつき、1回の講義と1～2回の実習を行い、レポートにまとめて提出する。

【評価方法】 Ⅰ・Ⅱとも、レポートで評価する。すべてのレポートの提出が必須である。

【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51651 51653	経済政策論Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	杉 山 俊 治
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 市場経済体制の円滑な機能をはかるために、多方面にわたる、国家（政府）の積極的な関与が不

可欠である。経済政策とは国民経済に対するそのような政府の干渉・介入である。本講はこの政府の経済政策活動の一般的な政策原理や思想の基本問題から、日本経済に関する個々の具体的な政策展開にいたるまでを概観することを通じて、経済政策の理論的認識を深めることをめざすものである。

＊「経済学入門」又は「経済原論」を履修していることが望ましい。

【講義計画】 前期の〔Ⅰ〕では、経済政策論の方法論に関し、価値判断問題、市場メカニズムの機能と限界を論じたあと、政策の一般的な課題とされる成長・安定・公正分配の問題を扱う。

後期の〔Ⅱ〕では、日本経済についての個別的な政策課題として、産業組織、産業構造、国際経済、人口、資源、環境などの領域の諸問題のいくつかを取り上げて検討する。

【評価方法】 期末に行う筆記試験の成績に、出席状況を加味して評価する。

【テキスト】 新庄浩二・山口三十四・丸谷冷史・足立正樹編『現代経済政策論入門』（有斐閣ブックス、1994）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51655 51657	経済変動論Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	田 原 昭 四
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 景気変動の理論的・統計的研究

【講義内容】 景気変動の性格と形態、景気理論の歴史と発展、景気政策の意義と特徴を論述するとともに、日本経済および世界経済における景気変動の実証的分析を取り上げる。

【講義計画】 経済変動論Ⅰでは、景気変動について基礎的知識と実証的研究を論述する。経済変動論Ⅱでは、これを踏まえて近代的景気理論と現代的景気理論、および景気政策を論述する。

【評価方法】 学期試験の結果を重視する。また、出席状況も評価する。

【テキスト】 田原昭四『景気変動と日本経済』（東洋経済新報社、1983）、および関連文献

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51661 51663	日本経済論A・B	選	3・4	各2	前期 後期	花 井 敏
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 日本経済の過去と現在

【講義内容】 前期、日本経済論Aでは、明治期以降から最近に至るまでの日本経済の発展過程を分析する。特に、欧米先進諸国との比較を通じわが国の発展過程の特質を探る。後期、日本経済論Bでは、現在の日本経済に焦点を合わせ、日本経済が抱えているさまざまな問題を扱う。

【講義計画】

1. 戦前の経済発展過程
2. 戦後日本の経済成長
3. 日本の経済発展の特質と政府の役割
4. バブル経済の生成と崩壊
5. 長期不況とデフレ経済の考え方
6. 変革期にある財政、金融制度
7. 日本経済と対外経済関係

【評価方法】 レポート、定期試験の成績から総合的に評価する。

【テキスト】 テキストは用いないが、講義の都度、関連文献を指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51665 51667	財政学Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	末 重 正 行
他の科目 との関連					他学科 履 修 可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 政府の経済活動を、(1)財政支出、(2)財政収入、(3)財政政策の側面から論ずる。

【講義計画】 財政学は、前期・後期各2単位であるが、通年4単位の履修で財政の全体的理解が得られるようにする。前期は主として、財政活動の特徴と財政支出を中心に考察する。後期は財政収入、特に租税の仕組みとその経済効果および公債について、また財政政策について講じる。

【評価方法】 期末試験によって評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51671 51673	金融論Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	荒 井 好 和
他の科目 との関連					他学科 履 修 可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 「金融」とは何だろうか。いま試みに、「金融とは、国内・国際を問わず、おカネの動きにかかわる経済活動である」と考えてみれば、私たちの毎日の生活は、「金融」なくしては成り立たないことは自明だといってよい。私たちが日々接する経済情報の中でとりわけ「金融」に関する情報が多いのも当然であろう。しかしながら、断片的な経済情報をただ漫然と眺めているだけでは、「金融」が、国民所得、雇用、金利、国際収支といったその他の重要な経済変数と、どこでどのように関わり合っているかを理解することはできない。金融とその他の経済活動との関係を捉えるためには、「理論」という道具がいる。すなわち、理論という道具を使って、金融現象が他の経済活動とどのように絡み合っているのかを明らかにしようとするのが金融論である。したがって、ミクロ・マクロ経済学の基礎的知識を前提とする。

金融の分野では、実際の金融制度や金融市場の仕組みに関する知識が不可欠であるが、この講義では、そうした実際の知識と理論の連携をはかりながら、現実の金融諸問題について理解を深めることを目的としている。

【講義計画】 以下の順で講義をおこなう。金融論Ⅰでは、このうち第1章から第5章までを扱う予定。金融論Ⅱでは、第6章以下を取り上げる。

第1部 経済活動と金融

第1章 金融とは何か——イントロダクション——

第2章 経済成長と金融資産の蓄積

第2部 経済主体の金融行動

第3章 家計の金融行動

第4章 企業の金融行動

第3部 金融機関とその行動

第5章 金融機関

第6章 金融仲介機関の行動

第7章 中央銀行の行動——セントラル・バンキング——

第4部 金融市場と支出および生産

第8章 マクロ経済と金融市場

第9章 金融政策

第10章 カレント・トピックス

【評価方法】 授業中に適宜行なう（10分程度の）小テスト、レポートおよび定期試験の結果を総合的に考慮して評価する。

【テキスト】 テキストは使用しない。参考書として以下のものを挙げておく。

1. 千田純一・相山孝金編『現代金融入門』（中央経済社、1993）
2. 鈴木淑夫編『実践ゼミナール 日本の金融と銀行』〔第2版〕（東洋経済新報社、1989）
3. 鈴木淑夫『現代日本金融論』（東洋経済新報社、1974）
4. 堀内昭義『金融論』（東京大学出版会、1990）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51685 51687	産業組織論Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	上 田 薫
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 産業組織論は市場構造及び企業行動、更にそれらの規制のあり方を分析するものだが、近年日本の市場構造や企業行動の「閉鎖性」が、欧米その他の諸国との国際関係における争点の一つになっている。こうした事情に鑑み、この講義では産業組織論の基本的な分析手法及び問題意識を説明するとともに、その応用として貿易問題・産業政策に関わるトピックを紹介していきたい。

【講義計画】

- ・余剰分析の基礎
 - (1)生産者余剰
 - (2)消費者余剰
 - (3)応用：関税・数量割り当て政策の効果
- ・独占
 - (1)独占企業の行動
 - (2)価格差別
 - (3)応用：貿易規制と企業の価格支配力、外国企業独占への政策、ダンピング
- ・寡占
 - (1)寡占の基本モデル：価格と数量
 - (2)シュタッケルベルク型複占
 - (3)応用：為替レートと国際間競争、戦略的通商政策
- ・戦略的企業行動
 - (1)参入阻止行動
 - (2)スイッチングコスト、ライバル企業への費用増加工作
 - (3)応用：流通系列化、排他的取引、多国籍化のメリット
- ・製品差別化
 - (1)水平的製品差別化
 - (2)垂直的製品差別化
 - (3)非価格競争
 - (4)応用：産業内貿易、技術移転

【評価方法】 筆記試験の点数で評価する。

【テキスト】 教科書は特に定めないが、授業内容の背景、またはさらに詳しい議論に興味を持つ人には、
 スティグリッツ著『ミクロ経済学』第8、9、10章
 奥野正寛・鈴木興太郎著『ミクロ経済学Ⅱ』第Ⅶ部
 ヘルプマン・クルーグマン著『現代の貿易政策』
 を薦める。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51691	社会保障論A	選	3・4	各2	前期	大 谷 津 晴 夫
他の科目 との関連	財政学、労働法、仕事の経済学			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 社会保障の歴史と理論

【講義内容】 前半で社会保障の意義と歴史的成立過程を講義し、後半では社会保障の需給メカニズムを取り上げ、福祉国家理論にも論及する。

【講義計画】

1. 社会保障の意義
2. 社会保障の諸制度
3. 社会保障の歴史
4. 救貧法の歴史
5. 社会保険の歴史
6. 福祉国家の成立
7. 社会保障の需要と供給

8. 市場の失敗と政府の役割
9. 政治システムの機能と社会保障
10. 福祉国家の諸問題

【評価方法】 定期試験の成績にしたがって評価する。

【テキスト】 特定のテキストは使用しない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51693	社会保障論B	選	3・4	2	後期	大谷津晴夫
他の科目との関連	財政学、労働法、仕事の経済学			他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 社会保障の諸制度

【講義内容】 社会保障の諸制度を取り上げて具体的に解説する。年金と医療が中心になる。

【講義計画】

1. 社会保障の範囲
2. 社会保障の諸制度
3. 生活保護制度
4. 医療保障(1)
5. 医療保障(2)
6. 医療保障の諸問題
7. 年金制度(1)
8. 年金制度(2)
9. 年金制度の諸問題
10. 高齢化社会の福祉サービス制度

【評価方法】 定期試験の成績にしたがった評価する。

【テキスト】 『保険と年金の動向（1995年度版）』（厚生統計協会、1995）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51701 51702	現代産業事情（損害保険事情）	選	3・4	各2	前期 後期	菊名俊寛
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 経営学部経営学科開講科目
71801・71802「現代産業論（損害保険論）1・2」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51703 51704	現代産業事情（総合商社事情）	選	3・4	各2	前期 後期	松井清治
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 経営学部経営学科開講科目
71803・71804「現代産業論（総合商社論）1・2」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51705 51706	現代産業事情（自動車産業事情）	選	3・4	各2	前期 後期	願興寺 胎之
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重複 履 修 不可

【講義内容】 経営学部経営学科開講科目
71805・71806「現代産業論（自動車産業論）1・2」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51707 51708	現代産業事情（電機産業事情）	選	3・4	各2	前期 後期	三 田 良 治
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重複 履 修 不可

【講義内容】 経営学部経営学科開講科目
71807・71808「現代産業論（電子・電機産業論）1・2」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51709 51710	現代産業事情（都市銀行事情）	選	3・4	各2	前期 後期	高 木 夏 樹
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重複 履 修 不可

【講義内容】 経営学部経営学科開講科目
71809・71810「現代産業論（都市銀行論）1・2」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51711 51713	国際経済学Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	山 田 正 次
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重複 履 修 不可

【講義内容】 モノやサービスの輸出入、外国との資金の貸借等、国境を越える種々の経済取引を対象として、それらに固有な原因や仕組み、そしてそれらの経済効果を明らかにし、そうした国際経済取引への政府の介入についても講述する。

【講義計画】 国際貿易、貿易政策、そして国際資本移動を主要テーマとして取り上げ、以下の各章の前半を「国際経済学Ⅰ」、後半を「国際経済学Ⅱ」として、現実の経済にも触れながら講義をする。

1. 比較優位の原理
2. 比較優位と生産要素
3. 貿易利益と交易条件
4. 保護貿易政策
5. 国際資本移動
6. 国民所得と経常収支

【評価方法】 定期試験の結果だけで評価する。

【テキスト】 使用せず。適宜、必要な文献を紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51715 51717	開発経済学Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	林 尚 志
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 南北問題とアジアの開発戦略

【講義内容】 第二次大戦以降、“南”と呼ばれる開発途上国は“北”と呼ばれる先進工業国に対して数々の要求を行いながら、自ら工業化を中心とする開発戦略を進めてきた。

本講義では、これらの流れを概観しながら南が直面してきた経済・社会問題を確認し、それらの解決に向けた開発戦略のあり方を考察する。とりわけ、近年成長の著しい東アジア諸国の成功例から学ぶべき諸点を探っていききたい。

【講義計画】 以下の構成に沿って講義を行う。なお、予め1講義当たり数問からなる疑問点をまとめた教材プリントを配布し、これらの疑問に答えていく形で講義を進める。随時小テストを行い、出席者の理解度に基づいて進度を調整するつもりである。

序章 南北問題と開発経済学

：南北問題の解決に向け、開発経済学が取り組むべき課題は？

Ⅰ章 南北問題の展開

：60年代以降、南北問題はどのような展開を見せた？

Ⅱ章 工業化戦略の持つ意味

：なぜ、南の国々は「工業化への夢」を追い求めてきたのか？

Ⅲ章 初期工業化戦略とその挫折

：初期工業化戦略は、どのように挫折したのか？

Ⅳ章 アジアの開発戦略とその成功

：「東アジアの奇跡」は、どのようにして生まれたのか？

【評価方法】 定期試験、および小テストに基づいて評価を行う。

【テキスト】 テキストは定めないが、以下が主要参考文献として用いられる。

(1)渡辺利夫著『アジア経済をどう捉ええるか』（NHKブックス、1989）

(2)渡辺利夫・足立文彦著『図説アジア経済』（日本評論社、1992）

(3)世界銀行（白鳥正喜訳）『東アジアの奇跡』（東洋経済新報社、1994）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51721 51723	国際金融論Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	荒 井 好 和
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 国際金融の分野では、実際の制度や市場の仕組みに関する知識が不可欠であるが、この講義では、そうした実際の知識と理論との連携をはかりながら、現実の国際金融諸問題について理解を深めることを目的とする。具体的には、外国為替市場の制度的分析、為替レートの決定要因および国際収支調整過程など、あくまでも、国際金融に関する基礎的知識の習得に主眼をおくが、国際金融論が応用経済学の一つであるという性格上、諸君が経済原論で学んだ理論を前提としている。さらに、国際経済学、金融論をあわせて履修することが望ましい。

今年度は、下記の書物をテキストとして用いる。本書は、入門書であるが、講義では補足的な説明を加えながら、幅広く解説したい。講義テーマを同テキストの目次から抜き出しておく。

【講義計画】

1. 国際金融から得られる利益
2. 国際取引と国際収支表
3. 外国為替市場と国際金融
4. 経常収支と為替レート
5. 国際資本移動の理論
6. 為替レート決定のメカニズム
7. 国際収支の調整メカニズム
8. 開放経済と経済政策

9. 経済発展と国際収支
10. 公的資本移動と経済援助
11. 国際通貨制度
12. 日本の黒字・国際金融・マクロ政策

【評価方法】 2回の定期試験、授業時に行なう数回の小テスト（10分程度）およびレポートによって評価する。

【テキスト】 鬼塚雄丞著『国際金融』（東洋経済新報社、1995）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51731 51732	世界経済事情（中国経済Ⅰ・Ⅱ）	選	3・4	各2	前期 後期	塚 本 隆 敏
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 中国の改革・開放政策をめぐって

【講義内容】 中国経済1992年以降高度経済成長を遂げています。それは「社会主義市場経済」の導入と大いに関係しているともいわれています。

1978年以降の「改革・開放」政策の導入後、次々に大胆な改革を打ち出してきました。一つは経済特区であり、もう一つは「先富起来」（豊かになれる人から先に豊かになりなさい）の提唱でした。そして、1993年の「社会主義市場経済」の定起・導入で、税制改革・労働法の施行、銀行法の導入などです。ここ16年間の「改革・開放」政策を分析し、21世紀の中国経済を紹介したい。

【講義計画】 中国経済を知るためにはいくつかのキーワードがあります。1. 社会主義市場経済とは何か。2. 企業の在職失業の実態は（三人の仕事を五人でする）。3. 郷鎮企業の所有は？4. 労働契約制と何か。5. 民工潮の評価について。6. 分税制とは何か。そして、7. 中国の食糧は不足するか？こうした事項を中心に、中国経済の実態を明らかにしたい。

【評価方法】 前後期・テスト実施。スクラップの提出。中国経済に関する読書感想文提出。

【テキスト】 塚本隆敏著『中国における労働市場問題』（税務経理協会）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51734 51735	世界経済事情（フィリピン経済Ⅰ・Ⅱ）	選	3・4	各2	前期 後期	P. Muncada
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 International Economic Conditions: Focus on the Philippines

【講義内容】 講義は日本語と英語を併用して行います。

After economic stagnation during the Marcos years, the Philippine economy has grown by 6 % in the past year. Is this a sign of real economic recovery? What are the dangers that lie ahead full economic recovery or the Philippines?

【講義計画】 Introductory discussion will touch on a brief economic history of the Philippines from the Spanish time, the galleon trade, the role of the Chinese to post-war Philippines.

There will be a discussion on Philippine economy during the Marcos, Aquino and the present Ramos regime. There will also be a discussion on the export of Philippine labor (overseas contract workers): its positive and negative impacts to the economy.

【評価方法】 Assessment is based on active class participation and reports.

【テキスト】 “Development and Characteristics of the Philippine Market Economy.” Bernardo M. Villegas. In *Guide Economics for Filipinos*. 4th Edition. Manila, Philippines. 1991.

“Sustainability of the 1994 Economic Recovery: Portents from the Past.” Raul V. Fabella.

"Employment, Competitiveness and Growth, 1980-1994." Emmanuel F. Esguerra. Printed materials will be provided in the class.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51741	西洋経済史 I	選	3・4	2	後期	桜井健吾
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 都市史を中心とした西洋経済史

【評価方法】 筆記テストと出欠

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51745 51747	日本経済史 I・II	選	3・4	各2	前期 後期	須磨千穎
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 I・IIを通じて江戸時代の経済史を扱う。Iでは幕藩体制社会の経済構造、IIでは幕藩体制崩壊過程における経済政策が主題。

【講義計画】 Iでは、幕府と藩、太閤検地、石高制、農民と村、領国経済と全国経済などについて講義。
IIでは、享保改革の経済政策、田沼政権の経済政策、寛政改革の経済政策などを順次取り上げて検討する。

【評価方法】 成績は学期末試験によって評価する。

【テキスト】 特定のテキストは使用しない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51751 51753	経済思想史 I・II	選	3・4	各2	前期 後期	橋本昭一
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 古代から現代に至る経済思想の展開

【講義内容】 経済思想史Iでは、経済思想と人間観・社会観とのつながりについて総論的な説明をした後、古代・中世の思想家（哲学者や神学者）の経済観を概説、つづいて重商主義・重農主義・古典派経済学の経済思想を解説、さらに古典派批判としての歴史学派と社会主義思想について概説する。経済思想史IIでは、近代経済学と呼ばれている19世紀末から主流派となる新古典派経済学の形成と展開について語る。

【講義計画】 経済思想史 I
第1編 経済活動と人間・社会・国家
第2編 19世紀中葉までの経済思想の展開
経済思想史 II
第1編 近代と経済学
第2編 限界革命の経済学
第3編 マーシャルの経済思想
第4編 ケインズ革命
第5編 現代経済学の諸潮流

【評価方法】 定期試験と提出自由なレポート（レポートは就職活動等で講義出席が不可能な学生向け、詳しくは第1回の講義時間中に説明）

【テキスト】 橋本昭一著『近代経済学の形成と展開』（昭和堂）参考文献はプリント配布の予定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51755	経済倫理学Ⅰ	選	3・4	2	前期	家 本 博 一
他の科目との関連	経済倫理学Ⅱ			他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 体制転換の経済倫理学——経済体制と経済倫理

【講義内容】 本講義では、ロシア・東欧諸国において現在進行中の体制転換過程を対象として、体制倫理の視点から、理論面での基本イデオロギーと建設理論についてだけでなく、現実面での具体的な展開過程についても、その基本性格、特徴、問題点を明らかにする。この際、カトリック社会教説での議論をその基礎として、それぞれの時代にどのような見解や展望が明らかにされていたのかについて論議する。

【講義計画】 本講義で論議する課題は、以下の通りである。
 1)体制倫理の基本視座と課題
 2)社会主義経済体制の成立と展開過程
 3)「ヤルタ体制」の誕生とその基本的な意義
 4)社会主義体制の正統性の危機から崩壊への30年間
 8)「1989年東欧革命」と「1991年ソ連邦の消滅」
 6)「脱社会主義」過程の基本性格と問題性

【評価方法】 本講義では、筆記形式による前期定期試験の結果に基づいて評価を下す。

【テキスト】 1)家本博一著『ポーランド「脱社会主義」への道』（名古屋大学出版会、1994）
 2)百々和・福田亘・角村正博著『経済体制論』（三和書房、1989）
 【参考書】
 フィリス・ディーン著、中矢・家本・橋本共訳『経済認識の歩み』（名古屋大学出版会、1995）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51757	経済倫理学Ⅱ	選	3・4	2	後期	橋 本 昭 一
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 人間の経済活動と制度

【講義内容】 近代以降の経済活動は自由主義・功利主義といった価値観によって支えられているが、その積極面を解説するとともに、現代経済が抱えている幾つもの問題は、その価値観だけでは解決不可能であることを示し、代替案を模索する。

【講義計画】 1)イギリス功利主義と経済制度の変化
 2)ヨーロッパにおける自由主義の展開
 3)カトリック社会理論の展開
 4)現代日本経済がかかえる諸問題とその背景
 5)制度の経済学と経済倫理

【評価方法】 定期試験

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51765 51767	経済学史Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	中 矢 俊 博
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 経済学の生成と発展

【講義内容】 経済学というものが何時生まれ、その後どのように発展して来たかを探る。アダム・スミスから J・M・ケインズに至る経済理論の歴史を紹介する予定。

【講義計画】 次の項目で講じる。
 1)何故、経済学史を学ぶのか
 2)古典派以前の経済学
 3)アダム・スミスの経済学
 4)マルサスの経済学
 5)リカードウの経済学
 6)「限界革命」の経済学
 7)マーシャルの経済学
 8)J・M・ケインズの経済学
 9)ケインズ以後の経済学

【評価方法】 定期試験の結果と適宜おこなう小テスト・レポートを総合的に考慮して評価する。

【テキスト】 三土修平著『経済学史』（新世社、1993）
 参考書：フィリス・ディーン著・中矢俊博他訳『経済認識の歩み』（名古屋大学出版会、1995）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51801 ） 51804	会計原理Ⅰ・Ⅱ	選	1～4	各2	前期 後期	高 橋 弘 一 斎 藤 孝 一
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 会計は、企業の経営活動を複式簿記の原理に従って情報化し、貸借対照表や損益計算書等の財務諸表によって報告するシステムである。会計情報の利用者には、経営者や管理者等の企業内部の利害関係者、債権者や投資家等の企業外部の利害関係者ばかりでなく、企画書を作成する社員や、顧客に自社製品の説明を行う営業マンも含まれる。会計情報の理解なくしては、現代の企業活動を理解することはできないし、また、会計情報がどのように作成されるかを知らなければ、会計情報の正しい分析はできない。本講義では、以下の観点から会計の原理について学習する。

【講義計画】 1)会計制度の社会的意義
 2)複式簿記の原理
 3)企業活動の諸取引
 4)財務諸表の構造
 また、会計原理の講義を補足するために、11月中旬に簿記検定3級程度の統一テストを行なう。このテストの可否は、直接会計原理の単位取得には影響を及ぼさないが、2年次以降の会計学の諸科目を理解するためには、合格することが重要である。自習用のテキストは適宜指示する。

【評価方法】 定期テスト、出席状況等を鑑み、総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51841	民法	選	2～4	4	通 年	松 倉 耕 作
他の科目との関連				他学科履修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 民法は日常生活に最も密接な関連をもった法律である。民法を大別すると、財産法と家族法とに分けることができる。

財産法の例をいえば、将来マンションを購入した場合に、銀行から借金をし、担保（抵当権）を設定するでしょう、このような場合の法律関係を扱います。その他に、交通事故や借地借家の問題も民法の対象となります。

他方、家族法の例としては、離婚や親子関係、さらには相続などがこれに含まれます。

【評価方法】 原則として、前期後期のテストを平均するが、いずれかが優れていれば合格する場合もある。

【テキスト】 『民法と現代社会』（さかの書院）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51845	商法	選	3・4	4	通 年	福 島 洋 尚
他の科目との関連				他学科履修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 本講義で扱う「商法」は非常に広範な法領域であり、例えば法学部においては、「商法総則・商行為法」「会社法」「手形法・小切手法」「海商法・保険法」が開講されている。その他にも、広い意味では「証券取引法」や「金融法」も含まれることになる。これらのすべてについて扱うことは、たとえ概説的なものであっても、時間的に到底不可能であると言ねばならない。したがって、前期講義において「会社法」を、後期講義において「商法総則・商行為法」「手形法・小切手法」を扱うこととし、他の部分については原則として割愛する（証券取引法については、会社法の中で若干言及するつもりである。）

【評価方法】 評価の方法については、前・後期とも試験を実施し総合的に評価する。講義の中で、答案作成上の留意点などにも言及している。また、前期試験については、後期の最初で解説をし、また答案全体についてコメントすることになっている。いずれにせよ、毎回の出席、予習を欠かさぬよう希望したい。質問は随時受け付けるが、多岐にわたる場合は書面によることが望ましい。

【テキスト】 テキスト・参考図書・商法に関連する読み物などは、初回に提示する。もっとも、テキストを指定しても、まったくその通りに講義するわけではないので、平成6年商法改正を盛り込んだものであれば、指定外のものでも構わない。ただし、『六法』（携帯用の小さいもので構わない）は必ず持参していただきたい。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51851	経済法	選	3・4	4	通 年	田 中 裕 明
他の科目との関連				他学科履修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 経済法総論として、経済法とは何か、民・商法とはどのような関係に立つかについて言及し、経済法の位置付けを明らかにする。次に各論として独占禁止法を対象に、その三本柱とされる「私的独占の禁止」、「不当な取引制限の禁止」および「不公正な取引方法の禁止」について論述する。

【講義計画】 1 総 論
経済秩序と経済法
2 各 論
(1)独占禁止法の目的と基礎概念

- (2)私的独占の禁止
 (3)企業結合規制
 (4)不当な取引制限の禁止
 (5)不公正な取引方法の禁止
 以上のテーマを中心に講述する。適宜、審判決例の紹介を通じて、講義の肉付けをする。

【評価方法】 前期・学年末共試験を行い総合的に評価する。

【テキスト】 松下満雄『経済法概説』（東京大学出版会）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51855	労働法	選	3・4	4	通 年	唐 津 博
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 労働関係は、一般に、日常生活を支える経済的基盤であり、また、労働関係の動向はわれわれの日常生活さらには社会生活の在り方と密接な関連を有している。本講義では、このような労働関係のさまざまな局面において、どのような法制度および法的ルールが形成、確立されているのかを整理・解説して、その解釈論的・立法論的検討を行う。

【講義計画】 労働関係法は、それぞれ独自の法理念と法政策によって規定されている三領域、すなわち労働政策法（労働市場法）、雇用関係法（個別的労働関係法）、および労使関係法（集团的労働関係法）の三領域に類別できる。このうち、近年の産業社会の急激な変容に伴って、労働政策法の比重が次第に大きくなってきており、労働関係法の対象領域は確実に拡大傾向にある。本講義ではこの三領域それぞれについて、労働関係の現状と動向をふまえて、より実践的な観点から見当を進めていくことにしたい。

【評価方法】 前期・後期の筆記試験の成績などによって評価する。

【テキスト】 テキスト、参考書は開講時に指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51861	行政法	選	3・4	4	通 年	栗 本 雅 和
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 法学部法律学科開講科目
 81303「行政法Ⅰ」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51961	演習Ⅲ	必	3	4	通 年	花 井 敏
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 日本経済のグループ学習

【講義内容】 本ゼミナールでは「日本経済のマクロ分析」を勉強しますが、今年度は、実際の問題に取り組みながら、日本経済に関する「問題発見」、「問題分析」、「問題解決」のテクニックをグループ学習します。
 たとえば、「体育会系クラブは就職に有利か」、「銀行の給料はなぜ高いのか」、「日本の出生率はなぜ低下しているのか」、「ガソリンの値段はなぜ横並びか」、といった具体的な（経済）問

題を取り上げ、こうした問題にどのように取り組み、いかにして最終的な成果にまで到達するか、といった一連のプロセスを学びます。

【講義計画】 まず前期では、4、5人からなるグループを作り、私が与える（比較的やさしい）問題に対して、どのようにアプローチして最終的な成果にまで到達するかにゆっくりと取り組みます。夏休みの合宿で各グループの成果を報告し合い、レポートにまとめます。

後期にはグループの編成替えを行ったうえで、各グループでそれぞれの問題、課題を発見してもらい、さらに、問題分析、問題解決へと進み、最後にレポートにまとめてもらいます。

【評価方法】 ゼミ出席、調査プロジェクトの成績、ゼミでの討論、などを総合的に評価します。

【テキスト】 特定のテキストは使いません。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者			
51962	演習Ⅲ	必	3	4	通 年	近 藤 仁			
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修	不可		

【副 題】 計量経済分析の基礎

【講義内容】 現実のデータを基礎に経済的な仮説を検証する手法を研究すること、およびコンピュータを用いて実証的に分析することが計量経済学の学問領域である。前期に計量モデルの特性や経済データの基礎、および計量経済分析の基礎的理論を習得し、後期には計量経済分析用コンピュータ・ソフトウェア「TSP」を利用した小グループによる実証分析を通して、分析結果の評価方法や実際の分析において生じる問題の解決方法を学習する。

【講義計画】 1)経済データ種類と特性およびデータの加工
2)計量経済モデル
3)最小二乗推定法
最小二乗推定量とその統計的特性
推定結果の評価（説明力、有意性検定、自己相関の有無等）
4)推定手法の拡張
多重共線性・ダミー変数・構造変化
一般化最小二乗法の利用
予測とシミュレーション
等について学習する。
また、グループによる実証研究は授業と並列して行う事になり、その研究成果は『南山学生論集』へ投稿する。

【評価方法】 出席は言うにおよばず、実証研究における貢献度と試験で総合的に評価する。

【テキスト】 山本 拓著『計量経済学（新数学ライブラリ12』（新世社、1995）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者			
51963	演習Ⅲ	必	3	4	通 年	水 谷 重 秋			
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修	不可		

【副 題】 環境経済学入門

【講義内容】 環境経済学の基礎的な内容を理解させることを目指す。

【講義計画】 1)4つほどのグループを作り、それぞれのグループごとに決めた課題を学習する。学習の結果はゼミで報告して、全員で討論する
2)学期末にグループごとの修了論文を提出させる。
3)春と夏に合宿を行う。（春は4年生と合同で行う。）

4)神戸大学と交歓討論を行う。

【評価方法】 毎回のゼミにおける活動状況をみて評価する。

【テキスト】 ゼミ共通のテキストは使用しない。ただし、下記の4冊は水谷ゼミの必読文献とする。
 本多勝一『日本語の作文技術』（朝日文庫、1982）
 本多勝一『実戦・日本語の作文技術』（朝日文庫、1994）
 木下是雄『レポートの組み立て方』（ちくま文庫、1994）
 永山嘉昭『説得できる文章・表現200の鉄則——パソコン・横書き時代の文章テクニック——』（日経B P出版センター、1994）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
51964	演習Ⅲ	必	3	4	通 年	村 松 久 良 光		
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修	不可	

【副 題】 仕事の経済学：アンケート分析

【講義内容】 「会社人間」や「働きすぎ」、そして最近ではホワイトカラーの人員整理など、日本の職場での働き方や雇用確保が問題になっている。実際に働いている人はどう思っているのだろうか。このようなテーマを念頭におき、私の関わった調査で行った実際の個人アンケートデータを材料に、アンケートのクロス集計などをコンピュータで行う手法を学ぶ一方、「仕事に関する経済学」を勉強していく。

【講義計画】 1)前期はコンピュータの使い方、SPSSXのプログラムを習い、クロス表を作成。自分たちでゼミ生を対象に質問紙を作り、集計することも行いたい。その後、以上の大量データをそれぞれのテーマ設定して分析し、発表する。
 2)合宿：3年の夏と4年になる前の春、愛知県下各地にある勤労福祉会館を予定。
 3)ゼミ生は、「経済統計学」、「経営労務論」、「労働法」を受講することが望ましい。

【評価方法】 ゼミへの参加熱心度と発表、修了論文。

【テキスト】 『新版 SPSSX1 基礎編』（図書館の本を利用）
 小池和男『仕事の経済学』（東洋経済新報社、1991）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
51965	演習Ⅲ	必	3	4	通 年	中 矢 俊 博		
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修	不可	

【副 題】 ケインズ経済学入門

【講義内容】 ケインズ経済学を各方面から分析する。

【講義計画】 前期には、ケインズ経済学の基礎を修得する。夏期合宿では、現実の経済問題を議論する予定。後期では何かのテーマで論文がかける様、論文の書き方の指導をしようと考えている。

【評価方法】 レポート、ゼミへの貢献度などを総合的に評価する。

【テキスト】 M. ブローグ著・中矢俊博訳『ケインズ経済学入門』（東洋経済新報社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51966	演習Ⅲ	必	3	4	通 年	奥 口 孝 二
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 P.R.Krugman and M.Cefitfeld, International Economicsを輪読する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51967	演習Ⅲ	必	3	4	通 年	桜 井 健 吾
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 近代ヨーロッパ経済史

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51968	演習Ⅲ	必	3	4	通 年	末 重 正 行
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 財政学の基本的問題を理解するために、テキストを使用し、報告、補足的資料調査、討論を通じて現代財政の姿を把握できるようにする。

【講義計画】 1. テキストにそって各自の分担部分の割当
2. 関連図書も参考にした報告（レジュメの配布をする）
3. レポートの提出
報告者は割当部分の報告だけでなく、既にすんだ箇所の理解の上に担当部分の報告を行ない、調べた点も加えることが望ましい。

【評価方法】 報告の内容、ゼミ中の討論参加、レポート等による。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51969	演習Ⅲ	必	3	4	通 年	田 原 昭 四
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 景気変動の理論と分析

【講義内容】 景気変動を学ぶためには経済理論はいうまでもないが、その背後にある歴史的事実や分析要具としての統計データが必要である。演習ではこうした観点から、各種の景気理論の性格と特徴を考察するとともに、戦前・戦後の日本経済に内在する長期・中期・短期の景気サイクルの実態を研究する。これによって、景気変動についての専門的知識の習得を目指す。

【講義計画】 各自に割り当てられたテーマを中心に、テキストおよび関連文献を参考にした研究報告、討議を行う。

【評価方法】 参考文献の調査研究、発表内容、質疑応答、出席状況を総合的に評価する。

【テキスト】 篠原三代平『戦後50年の景気循環』（日本経済新聞社、1994）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51970	演習Ⅲ	必	3	4	通 年	荒 井 好 和
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 金融・国際金融論

【講義内容】 金融・国際金融の諸問題に関心を持つ人は多い。しかし勉強を進めるにしたがって、金融・国際金融の領域ほど理解しがたいものはないという感想を持つに至る人が多い。これは、私たちが日々の生活のなかで接する金融情報と、いわゆる金融「理論」とのギャップが大きすぎることに原因があるのではないだろうか。そこで、この演習では、まず現実の金融・国際金融の領域で起こっているさまざまな変化を概観することから出発し、それらの変化が《さまざまなレベルで相互に関連している》事実を確認する。ついで、種々の金融現象を系統的に理解するための「道具としての理論」の習得に進むという手順を踏んでみたい。前期で、上記の「現実と基礎理論」を終え、夏休みと後期は、他大学（大阪外国語大学と名古屋大学）との交換ゼミの準備に入る。

【講義計画】 初めに、根津永二・辻正次・千田純一・奥野博幸・桜川昌哉著『やさしい日本の金融の話』（有斐閣、1995）を読む。ついで、河合正弘・須田美矢子・翁邦雄・村瀬英彰著『ゼミナール国際金融・基礎と現実』（東洋経済新報社、1993）を取り上げ、国際金融の現実を見る。ただし、理論的な細部にはこだわらない。前2書を読了した後、理論の入門書として、岩田規久男・堀内昭義著『金融』（東洋経済新報社、1983）を読む。また、必要に応じてジャーナルの論文を適宜使用する。前期：2人1組で一つの章を担当し、レジュメを作成する。1回のゼミで、2～3章進む予定。後期：他大学と協議の上、討論のテーマを決め、2つのグループがそれぞれのテーマのもとに討論に向けて準備を進める。

【評価方法】 1)2回無断で欠席した場合はF。
2)ゼミでの報告、発言、討論会のための論文作成などで評価。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51972	演習Ⅲ	必	3	4	通 年	大 谷 津 晴 夫
他の科目との関連	財政学、労働法、仕事の経済学			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 福祉国家の思想と批判

【講義内容】 福祉国家の思想と批判をテキストを用いながら学んでいく。卒業論文のテーマ選択に役立つよう幅広い見地から議論していく。

【評価方法】 演習での報告と準備の出来ばえによって評価する。

【テキスト】 F.A.ハイエク著『自由の条件』（春秋社）、その他数点。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51973	演習Ⅲ	必	3	4	通 年	上 田 薫
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 不完全競争市場の分析と応用

【講義内容】 不完全競争市場の分析は、独占禁止法、貿易摩擦、企業組織、途上国経済等の問題との関連で、近年ますます重視されるようになっている。本演習では、不完全競争の分析の基本的考え方について学習し、ゼミ生の希望に応じて上に述べたような問題のいくつかへの応用を紹介していくことにしたい。

【講義計画】 当面、下に述べた基本テキストをグループ分担で輪読していくことにする。

【テキスト】 スティグリッツ著『ミクロ経済学』（東洋経済新報社）の8章から12章を基本テキストとして用いる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51974	演習Ⅲ	必	3	4	通 年	山 田 正 次
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 国際経済学の分野で、貿易不均衡の問題、とりわけ日本の貿易黒字の原因や効果を検討する。

【講義計画】 テキストに従い、グループごとの発表と討論を行う。ゼミは週二回で、ゼミ生の関心に従って国際経済のカレントトピックスをも議論する。

【評価方法】 普段の報告と質疑応答等から総合評価する。

【テキスト】 伊藤・通産省著『貿易黒字の誤解』（東洋経済新報社、1994）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51981	演習Ⅳおよび卒業論文	必	4	4	通 年	花 井 敏
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 日本経済のマクロ分析

【講義内容】 本ゼミナールでは「日本経済のマクロ分析」を勉強しますが、4年次には各自の卒論に取り組みます。

【講義計画】 4、5月 卒論のテーマ決定
6月 文献研究
夏休み 資料収集、データ分析
10、11、12月 卒論の経過報告
1月 卒論執筆、提出

【評価方法】 ゼミ出席、卒論のできばえ、ゼミでの討論、などを総合的に評価します。

【テキスト】 特定のテキストは使いません。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51982	演習Ⅳおよび卒業論文	必	4	4	通 年	近 藤 仁
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 計量経済分析の実際と応用

【講義内容】 3年次で学習した計量モデルの分析手法を、卒業論文で実証研究として実際に取り入れる場合の、データの収集や加工に関する問題点やモデルビルディングにおける問題点等について解決方法を考えるとともに、より高度な推定手法についても学習し、充実した卒業論文となるように指導する。

【講義計画】 個人の研究発表を基礎に、モデルやデータ、推定結果における問題点や解決方法について全員で討議する。その結果を受けて、実証研究における知識の充実を図るとともに、現実に対応できるように具体的なモデル推定改良手法やより高度な推定方法を学習し、卒業論文への応用について指導する。

【評価方法】 出席は言うにおよばず、研究発表と議論への参加度・貢献度で総合的に評価する。

【テキスト】 養谷千鳳彦著『計量経済学（第2版）』（東洋経済新報社、1988）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51983	演習Ⅳおよび卒業論文	必	4	4	通 年	水 谷 重 秋
他の科目との関連					他学科履修 不可	重複履修 不可

【副 題】 公共経済学

【講義内容】 卒業論文作成の個別指導：毎週のゼミの時間と個別面接を通じて各自の卒業論文を完成させる。

【講義計画】 毎週2人ずつ順に卒業論文の経過を報告し、他のゼミ生からの質問や意見に答えつつ論文を完成させていく。

【評価方法】 ゼミの場での活躍状況や卒業論文の出来具合などを見て総合的に判断する。

【テキスト】 全員に共通のテキストは用いない。「水谷ゼミ生必読文献」については「演習Ⅲ（水谷）」を参照せよ。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51984	演習Ⅳおよび卒業論文	必	4	4	通 年	村 松 久 良 光
他の科目との関連					他学科履修 不可	重複履修 不可

【副 題】 仕事の経済学

【講義内容】 卒業論文に向けての発表と質疑。

【講義計画】 卒業論文のテーマ設定、関連文献の収集方法を教え、文献サーベイから順に発表していく。

【評価方法】 演習への参加度と発表内容。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51985	演習Ⅳおよび卒業論文	必	4	4	通 年	中 矢 俊 博
他の科目との関連					他学科履修 不可	重複履修 不可

【副 題】 ケインズ経済学

【講義内容】 各自の選定したテーマに従い、卒業論文を完成させることが、本演習の課題である。

【講義計画】 毎週2人ずつ卒論の経過報告を行い、他のゼミ生からの質問等に答える。それをもとに卒論を完成していく。

【評価方法】 報告内容と卒論の出来具合との総合評価。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51986	演習Ⅳおよび卒業論文	必	4	4	通 年	奥 口 孝 二
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 前半では卒業論文に関連したテキストまたは論文を輪読形式で読み、後半で卒論の指導を行う。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51987	演習Ⅳおよび卒業論文	必	4	4	通 年	桜 井 健 吾
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 近代ヨーロッパ経済史

【講義内容】 卒論発表

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51988	演習Ⅳおよび卒業論文	必	4	4	通 年	末 重 正 行
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 財政学

【講義内容】 各自の選んだ卒業論文の発表。

【評価方法】 議論への参加、発表の内容により評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51989	演習Ⅳおよび卒業論文	必	4	4	通 年	杉 山 俊 治
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 演習Ⅲの期末に各自が提出した研究計画書に従い、個別の研究報告と共同の討議を行い、卒業論文の作成を指導する。

【評価方法】 演習への出席、発表内容、卒論によって評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51990	演習Ⅳおよび卒業論文	必	4	4	通 年	須 磨 千 穎
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 日本経済史演習

【講義内容】 前期は演習Ⅲの継続として、明治前期の歴史の主要テーマについて、順次テストの史料を読み、討議研究する。後期は、受講者各自の卒業論文のテーマについて報告を求め、論文作成の指導を行なう。

【評価方法】 前期・後期末に提出するレポート、演習での発表、出席状況、卒業論文等により総合的に評価する。

【テキスト】 大久保利謙編『近代史史料』（吉川弘文館）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
51991	演習Ⅳおよび卒業論文	必	4	4	通 年	田 原 昭 四		
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修	不可	

【副 題】 景気変動の実証分析

【講義内容】 演習Ⅲで習得した理論および分析手法に基づいて、景気変動についての実証分析を行う。さらに、その成果を踏まえて卒業論文作成を指導する。分析対象領域は戦前および戦後の日本経済における景気変動、諸外国における景気変動および国際比較、景気変動の国際的波及など、広範囲なテーマを取り上げる。

【講義計画】 前期においては、各自が選定したテーマに基づく実証分析の研究報告と討議を行う。後期においては、その成果を活用した卒業論文の発表と指導を行う。

【評価方法】 研究報告内容、質疑応答、卒業論文成果、出席状況を総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
51992	演習Ⅳおよび卒業論文	必	4	4	通 年	荒 井 好 和		
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修	不可	

【副 題】 金融・国際金融論

【講義内容】 各自が選んだテーマについて、研究報告と共同討議を重ね、卒業論文作成の指導を行なう。

【評価方法】 セミナールでの報告内容と卒業論文で評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者		
51993	演習Ⅳおよび卒業論文	必	4	4	通 年	程 島 次 郎		
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修	不可	

【講義内容】 卒業論文指導

【評価方法】 セミへの参加、発表、卒業論文による。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51994	演習Ⅳおよび卒業論文	必	4	4	通 年	大 谷 津 晴 夫
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 前期は医療の問題を検討し、後期は卒論の発表にあてる。

【評価方法】 報告と卒論の出来具合によって評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
51995	演習Ⅳおよび卒業論文	必	4	4	通 年	山 田 正 次
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 国際経済の分野で各自の選んだテーマに従って、順次、報告と討論を行い、卒業論文の作成を指導する。

【評価方法】 普段の発表と卒業論文等から評価する。